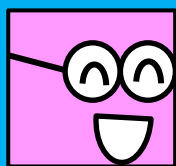


# 「キャリア・パスポート」の 取組をすすめるために



～教員向け説明資料～



## 「キャリア・パスポート」とは？

小・中・高等学校学習指導要領における特別活動の学級活動・ホームルーム活動（3）「一人一人のキャリア形成と自己実現」では、児童生徒が、学校、家庭及び地域社会において学んだことを振り返り、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行います。その際、児童生徒が学びを記録し蓄積する教材が「キャリア・パスポート」です。



# 「キャリア・パスポート」の目的

小学校から高等学校を通じて、児童生徒にとっては、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につなぐもの。

教員にとっては、その記述をもとに対話的にかかわることによって、児童生徒の成長を促し、系統的な指導に資するもの。

「キャリア・パスポート」例示資料等について（文部科学省 平成31年3月29日事務連絡）

# 「キャリア・パスポート」の内容

- ① 児童生徒自らが記録し、学期、学年、入学から卒業までの学習を見通し、振り返るとともに、将来への展望を図ることができるものとする。
- ② 学校生活全体及び家庭、地域における学びを含む内容とする。
- ③ 学年、校種を越えて持ち上ることができるものとする。
- ④ 大人（家庭や教師、地域住民等）が対話的に関わることができるものとする。
- ⑤ 詳しい説明がなくても児童生徒が記述できるものとする。
- ⑥ 学級活動・ホームルーム活動で「キャリア・パスポート」を取り扱う場合にはその内容及び実施時数にふさわしいものとする。
- ⑦ カスタマイズする際には、保護者や地域などの多様な意見も参考にすること。
- ⑧ 通常の学級に在籍する発達障害を含む障害のある児童生徒については、児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じて指導すること。また、障害のある児童生徒の将来の進路については、幅の広い選択の可能性があることから、指導者が障害者雇用を含めた障害のある人の就労について理解するとともに、必要に応じて、労働部局や福祉部局と連携して取り組むこと。
- ⑨ 特別支援学校においては、個別の支援計画や個別の指導計画等により「キャリア・パスポート」の目的に迫ることができると考えられる場合は、児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた取組や適切な内容とする。

児童生徒が学校だけでなく全ての学びを振り返ることができる工夫が必要です。

まとめたものは学校で保管して学年、学校種を越えて持ち上がります。

大人が対話的にかかわることができるようにすること、つまり、子ども達が「包み込まれている感覚」を持てるようにすることも大切です。

「キャリア・パスポート」例示資料等について（文部科学省 平成31年3月29日事務連絡）

# 「キャリア・パスポート」のイメージ



## ポートフォリオ

振り返って  
まとめる

蓄積するもの  
を選ぶ

### 日々の授業や行事等の記録

児童生徒が日々積み重ねている教科等のワークシート、学校行事等の記録（ポートフォリオ）をこれまで以上に大事にし蓄積していく。



## キャリア・パスポート

A4判（両面使用可）に統一  
各学年での蓄積は数ページ（5枚以内）

### 学期や年間、入学から卒業を見通し、振り返る記録

小学校から高校までの全ての記録を持ち上げるには量的に、工夫が求められる。（ファイルなどにまとめて、学年、校種を越えて持ち上げる。）

次の学年や校種に引き継ぐ



## 活用

### 学校生活全体、これまでの生活等を振り返り、これからの生き方を見通す記録

校種を越えた振り返りや社会生活への見通しを立てることもつながる。



# 「キャリア・パスポート」の実施に向けて

Society5.0の時代、子どもたちに「学びに向かう力」を涵養することが求められています。その「学びに向かう力」は児童生徒が社会に出ても持ち続ける必要がある力です。

京都府教育委員会では、「平成31年度学校教育の重点」の中で、認知能力と非認知能力を一体的にはぐくむ教育の展開を重点戦略として挙げています。特に非認知能力の育成については、児童生徒が学びを自らの経験として捉えることや、成長を実感することが大切な要素であると言われています。児童生徒にとって将来に渡って必要になる力を、成長を実感できる場面を通して涵養するための一助として「キャリア・パスポート」は活用できると考えています。

そのような児童生徒の成長を実感させるためのツールは、画一的なものでは十分な効果が得られず、児童生徒の実態を把握した上での目標設定や教育活動と密接に関係したものが必要です。

それは普段、地域や学校での先生方の取組に一工夫することで可能になります。例えば、児童生徒が日々積み重ねている教科等のワークシート、学校行事等の振り返りの記録をこれまで以上に大切にしていくことです。それによって、将来にわたっての「学びに向かう力」を育成することにつながると考えます。

このように「キャリア・パスポート」はそれぞれの地域、学校の実情に応じて蓄積することが重要です。各教育委員会や学校の先生方で新たに特定の書式を作成する方法でも、現在使用している学期や学年の「まとめ」を見直し蓄積する方法でも構いません。児童生徒が将来にわたって自分の学びを振り返った際に有効であろうと考えられる項目を、「キャリア・パスポート」例示資料等について（文部科学省 平成31年3月29日事務連絡）を基に、作成のポイントとして示しましたので、参考に作成してください。



## 「キャリア・パスポート」作成のポイント

児童生徒の学年や発達段階、地域の特性に応じて、児童生徒の現在、未来にわたって活用できるような「キャリア・パスポート」にする際の、参考にしてください。

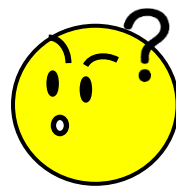
|    |                                     |  |
|----|-------------------------------------|--|
| 内容 | 自分自身に関すること                          | 自身のよいところ（成長したところ）や課題などを振り返ることができますか<br>取得した資格や大会の成績、それに対する自分の思いを書き留めることができますか  |
|    | 学校生活・他者との関わり                        | 教科学習について振り返ることができますか   |
|    |                                     | 教科外活動（学校行事、児童会活動・生徒会活動やクラブ活動、部活動など）について振り返ることができますか<br>学校外の活動（ボランティア等の地域活動、家庭内での取組、習い事などの活動）について振り返ることができますか                         |
|    | 学校目標との関わり                           | 小学校6年間(中学校3年間)を通して一貫した方向性（目標や育みたい力）が感じられますか  |
|    | 将来に向けて                              | 次のステップや次年度の目標を立てられるようになっていますか<br>将来の展望を考えるきっかけになっていますか   |
|    | 全体を通して                              | 学びに向かう力や、学ぶことの意義を涵養できる内容になっていますか<br>保護者や教員が対話的に関われる内容になっていますか<br>教育相談や三者懇談などの資料として活用できる内容になっていますか（活用を義務付けるものではなく、活用自体は児童生徒の状況に応じて行う） |
| 体裁 | 一回の分量がA4版両面1枚以内、年間の総枚数が5枚以内になっていますか |  |
|    | 詳しい説明がなくても子どもたち自身で記述ができますか          |  |

- ※ 年度のまとめ等を作成される際のポイントを示しています。
- ※ 年度初め、途中の様式を作成される場合は、年度のまとめを意識して作成してください。
- ※ 文部科学省より提示されている例示資料も参考に、自校の学年のまとめ等を見直す形での作成をお勧めします。
- ※ 児童生徒の発達段階や各校（地域）の実態に応じて作成してください。
- ※ 内容については、全ての項目を別々の質問にする必要はなく、一つの質問でいくつかの内容を含むことも考えられます。
- ※ 質問項目は記述式だけでなく、ABCや123といった評価方法、選択肢なども考えられます。
- ※ 呼称については、「キャリア・パスポート」である必要はありません。各学校（地域）独自に設定可能です。

# 「キャリア・パスポート」に係るQ&A

## Q1 「キャリア・パスポート」は、実施しなければならないの？ いつから実施するの？

新学習指導要領総則では、児童生徒が「学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要として各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること」について明示されました。また、新学習指導要領特別活動では、「学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行う」際に、児童生徒が「活動を記録し蓄積する教材等を活用すること」とされており、各教育委員会や学校において適切に実施する必要があります。



また、時期は令和2年4月より全学年、全校種で実施となります。年度の終わりである令和3年3月に、各学年5枚以内の記録を蓄積し、一つ上の学年、校種に引き継ぎますので年度を通しての準備をしてください。

## Q2 「キャリア・パスポート」は、学級活動の時間に記録するの？

「キャリア・パスポート」やその基礎資料となるものの記録や蓄積が、学級活動・ホームルーム活動に偏らないように留意することとされています。学級活動以外の教科・科目や学校行事、帰りの会等での記録も十分に考えられます。学級活動・ホームルーム活動で「キャリア・パスポート」を取り扱う場合には、活動の記録のみに留まることなく、記録を用いて話し合い、意思決定を行う等の学習過程を重視しましょう。

## Q3 項目に空欄があってもいいですか？

本人の意思と反する記録を強いる必要はありません。その場で書けなくても面談など対話の機会を通じて引き出す方法なども考えられますが、無理のない範囲で対応してください。「キャリア・パスポート」が学習活動であることを踏まえ、日常の活動記録やワークシートなどの教材と同様に指導上の配慮を行ってください。

また、特別な配慮を要する児童生徒については、個々の障害の状態や特性及び心身の発達段階等に応じた記録や蓄積となるように配慮しましょう。

## Q4 小学校、中学校、高等学校と蓄積しているうちに、ファイル類がいたんでしまうのでは？

「キャリア・パスポート」の管理は、原則学校で行うものです。普段、持ち運んだり、持ち帰ったりする機会は少ないと思われます。もしも、紛失・破損等があった場合には、普段の学習活動で活用している教材と同じように対応してください。

## Q5 「キャリア・パスポート」として蓄積する記録の中身は決められていないの？

「キャリア・パスポート」は、それぞれの地域や学校の実情、児童生徒の実態に合わせ、カスタマイズすることとなっています。これまでに既に取り組みされてきたワークシートや基礎資料を、これまで以上に大切に、活用してください。そのため、蓄積する記録の中身は決められておらず、文部科学省より「例示資料」として参考にできるものが示されています。府教委による『「キャリア・パスポート」作成のポイント』も踏まえつつ、地域や学校の実態に合わせてカスタマイズしてください。



<参考・引用> 小・中学校学習指導要領（平成29年告示）小・中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編  
「キャリア・パスポート」例示資料等について（文部科学省平成31年3月29日事務連絡）  
キャリア教育リーフレットシリーズ特別編（1～4）国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター

